

タカサゴユリ(シンテッポウユリ)の分布調査

* タカサゴユリの特徴 *



<タカサゴユリ *Lilium formosanum* Wall.Wall.> 台湾原産。わが国には1924年に導入され、庭園や切り花用に栽培されてきたが、種子の発芽から6ヶ月ほどで開花するため、近年各地で野生化して道端や堤防法面などで繁殖している。
「日本帰化植物写真図鑑」(全農教出版)

<テッポウユリ *L. longiflorum*> (花期3~6月) 種子島・屋久島に自生し、海岸近くの崖などに生える多年草である。ただ、もっとも多く栽培されているユリで、多くの園芸品種がある。
「野に咲く花」(山と渓谷社)

<タカサゴユリの花>
タカサゴユリは、花の横に茶色がかった線状の模様があります。真っ白な花のものもありますが、これはテッポウユリと交配されて造られた雑種です。実はさらに交配を続け雑種の雑種(?)ができる可能性があります。園芸種として「テッポウユリ」を庭に植えている方もありますが、花期はだいたい6月ぐらいまで、これはほとんど野生化しません。

<見分け方>

「テッポウユリ」は、葉っぱが太く2~3cmありますが、「タカサゴユリ」は、葉っぱが細く0.5~0.8cmくらいですので、ここで見分けてください。花の高さは10cm程度の小さいものや、1m以上ある大きいものまであります。また、20cm程度で花をつけているものもありますが、50cm位あっても花のついていないものもあります。茎の太さも5mm~1.2cmなど様々です。葉っぱは互い違いについていますが、大きい場合はかなり密集しているものもあります。

※ 花が終わっているものも多く見られますが、葉っぱで見分けて探してください。

<問題点>

1. 「タカサゴユリ」は百合根が残っていれば毎年出てきます。さらに1つの花に何千という種子ができる周囲に蒔かれますので、増殖をするスピードがかなり早いです。また花期が長く冬季でも花をつけるため、これらの繁殖の早さは尋常ではありません。
2. 美しいため除草されることが少なく、観賞用としても花壇に植えられる事も多く見られます。道路の法面などは8月~9月にかけて真っ白になっている所も見られます。
3. すでに、自然を保護したい場所や里山などへ侵入している可能性がかなり高いです。拡散を防ぐために、早急な調査と防除を考える必要があります。

<処置方法>

とりあえず、花壇に植えている方は花を愛でたら種が出来ないようにすぐ摘んでください。

数が多く発見された場合も、種ができるないようにすべての花を摘んでください。

1本程度で侵入したばかりの時に処置を施すしか有効な手段が今はまだありませんので、見つけたら掘り起こし必ずすべての百合根を取り除いてください。

@注意@ 幾重にも重なっています。一つでも残ったら、翌年芽があるので、全部掘ることが必要です。

<地図と記録用紙の記入の仕方>

1. 花を見つけたら、地図に番号を記入してください。
2. 記録用紙に番号を記入し、下記の例のように記入してください。

* 記入例 *

No	植生場所の状態								本数	高さ(cm)	花・蕾の数(本)	植生の状況メモ
	則面	路側帯	植込	公園	花壇	庭・フローランサー	駐車場	河川敷				
1		○	○						6	30~50	0~1	サツキの植え込みの中に生えている
2						○			2	15~20	0~1	コンクリートの隙間に生えている
3			○	○					30	10~70	0~5	約1m ² 範囲内で大小30本生えている
4					○				10	30~40	1~2	他にもナデシコなどが植えられている
5						○			1	40	2	コンクリートで固められている隙間に